

共同礼拝

2024年10月20日(日) 午前10時30分

午後4時

司式 牧師 姜 徑米

奏楽 河野和雄

前 奏

招 詞 ハバクク書 2章20節

讃 詠 546

主の祈り

聖 書 箴 言 26章16節 (旧1025)

マタイによる福音書25章14～30節

(新49)

祈 禱

使徒信条

讃 美 歌 280

説 教 「巨大な恵みに生きる」

牧師 高橋和人

祈 禱

讃 美 歌 495

献 金

頌 栄 540

祝 禱

後 奏

起立が困難な時は着席のまま礼拝します。

礼拝は前の方から静かに着席しましょう。

10月の祈り

主の御心によってキリストの体としての教会がここに立てられ、御言葉に立ち、宣教の使命に生き、主の導きによって今に至るまで守られて来たことに感謝し、世の終わりまで、時が良くても悪くても、御言葉を宣べ伝え、希望をもって歩に歩むことができるように。

礼拝諸集会と各部会、部門会、教会学校、幼稚園の働きが力づけられるように。

平和を求める祈りが力づけられるように。

今日の祈り

教会と幼稚園の秋の予定が守られますように。

教会学校と教会学校教師の働きが守られ力づけられるように。

愛する者が主の御許に委ねられた人々に慰めの御手が与えられるように。

紛争の地に平和がもたらされるよう祈りが力づけられるように。

「巨大な恵みに生きる」 高橋和人

マタイによる福音書25章14～30節

25章は主イエスが弟子たちに語られる説教の最後になる。十字架に向かう時計が進んでいる。主は終わりの時、そして再臨の時を語られる。

主がこのたとえを語っておられるとき、十字架の時が迫っていた。それゆえ、一般的な教訓のように読むことはできない。弟子たちへの切実な思いが現れている。

主イエスは弟子たちとの別れを知っておられた。それは長い別離の時をもたらす。その時にどのように生きるか、それが弟子たちの課題となる。

たとえば、主人が旅に出る。主イエスは「しば

らくすると、あなたがたはもうわたしを見なくなるが、またしばらくすると、わたしを見るようになる。」(ヨハネ16:16)と別離と再会を語る。

主人は僕たちを読んで「それぞれの力に応じて」財産を預けた。五、二、一タラントに。主人が帰ってきて清算がなされ、五タラント、二タラント預かった僕は預かった分と同額のもうけを差し出した。主人は忠実な良い僕とし「お前は少しのものに忠実であったから、多くのものを管理させよう、主人と一緒に喜んでくれ」と褒める。

一タラントを土に埋めておいた僕は、主人が厳しい方で恐ろしくなり、地の中に隠しておいたと一タラントを差し出す。主人は、怠け者の悪い僕とし、タラントを取り上げ、十タラント持っている者に与え、外の暗闇に追い出させる。恵みに手を付けずに、自分のもので生きていてもむなし。

このたとえには注意が要る。一タラントは20年分の賃金にあたる高額だ。タラントはタレントの語源だが才能、能力を無駄にするなどというのではない。一連のたとえは主の再臨の時のために「少しのものに忠実である」ことを教える。

今は主イエスの不在の時、神なき時代の姿を示す。この時、神に委ねられた恵みを確かめなければならぬ。全てのものは主のもの、体も命も人生も預かったものだ。その恵みを知るものは恵みの大きさを知り、自分の小ささを知る。その時恵みは一層大きくなる。小ささに忠実なことを積み重ねる。小賢しくあってはならない。

主イエスとその十字架こそ最大の恵みだ。主の大きな恵みを預かっている。支えられて、主の不在の時も待望に生きることができる。主のものとして生きる生涯は全て、主に捧げられるもうけになる。